

### 3 - 1 最近の御前崎地区における地殻の上下変動

国土地理院測地部

国土地理院は特定観測地域の御前崎地区において、海岸沿いの二等水準路線を一等水準測量の精度で1970年6～7月に再測した。両端点是一等水準点である。この路線は1961年に1度だけ二等水準測量が行なわれた。その時の値は両端を1950年の一等水準測量の値で縛って調整されている。第1図にこの路線の1961～1970年間の変動を示す。東下りの傾動が顕著である。引き続き9月にやや内陸寄りの一等水準路線を再測した。その結果を第2図に示す。値には未だ第1図と第2図の東端のNo.132の沈下は本来なら一致すべきであるが、今回の観測環閉合差を配分してないのでその量だけ僅かに食い違っている。

第1図と第2図から御前崎の先端に近いNo.2593のJ141に対する変動を求めると最近9年間で約3～4cmの沈下になり御前崎が掛川附近の半島基部に対して若干の沈下傾向を示している。

一等水準路線の中からほぼ等間隔に9点を選び更に1931年まで遡って変動図を描いてみると第3図右のようになる。更に代表的な数点を選び、西端のNo.145.1を不動と仮定してそれらの点の変動を時間を横軸に取って追跡すると第3図左の実線の図が得られる。RCCEP第2巻4-6の「東海地方の地殻上下変動」によれば、掛川(J141)以西の土地は東南海地震1944の時約十数cm隆起したと想像される。従って第3図左でNo.136.1, 132が1931年から1950年にかけて急激に沈下しているのは、実際にはこれらの点が沈下したのではなく、逆にこの図で不動と仮定したNo.145.1がこの間に隆起した、めと解釈する方が妥当のようである。No.145.1の隆起前の位置を基準にとるとNo.136.1, 132は図の点線で示すように1930年以来ほぼ一様な速度で沈下を続けていることになる。



第 3 図

